

など処分したい物を引き取り、リサイクルや廃棄する作業を代行するもの。入会金と初年度会費込みで5000円支払えば、不用品を無料で引き取り、救済物資として届ける。

集まった品物を4トウイングトラック1両に積み込み、現地に輸送。現地ではトラック内に品物を陳列し、フリーマーケットのように車内をそのまま開放し、被災者に好きな物を選んでもらう形式を構想中。坂田社長は現地と調整しており、岩手県に7月初旬に第一弾を送り込む考えだ。

坂田氏は「またまともにも生活用品を手に入れられずに、不便な生活を送っている方々がたくさんいる。ショッピング感覚で少しでも楽しんで、必要な物を手に取ってもらえれば」と話している。

松下運輸は5月1日にも関連会社の要請に協力し、福島県郡山市のビッグパレットふくしまで炊き出しイベントに参加。東京から食料を輸送し、現地で被災者に2000食のシチューを配るボランティアを行った。

(北 博樹)



【神奈川】運賃は平成元年(1989年)のタリフをベースに、往復かつ2割増しで請求するのが妥当なのか。助成金や交付金をもらっており、災害時には積極的に協力するスタンスであるべき。運賃を再考する余地はあると考える。安藤運送

安藤運送店 安藤 賢一さん

緊急輸送運賃に疑問

災害時こそ協力すべき

藤賢一社長は、災害時の緊急物資輸送の運賃について問題を提起する。所属する神奈川県トラック協会の川崎地区支部(高橋浩治支部長は、川崎市との協定に基づき東00ギの2割アップで計算。2004年に発生した新潟県中越地震の時に取り交わした運賃契約を今回も適用したという。「料金を取るはおかしくないが、果ては危険手当も含めた適正レベルとの議論は成り立つ。一方、無償で引き受けてもおかしくない。その場合は神ト協(筒井康之会長)で全額を負担するのがベスト」と指摘。本会の改革特別委員会(吉田修一委員長)では13年11月末を期限とする公益法人制度改革を見据え、組織改革の検討作業を進めている。同委員を務める安藤氏は「新組織に移行後は、本部が災害時の物資輸送の一括窓口となるべき」と提案する。

(沢田 顕嗣)

間伐材で癒やしグッズ

黒姫 販売通じ環境保全に貢献

【東京】産業廃棄物収集運搬・処理を手掛ける黒姫(渡辺明彦社長、東京都足立区)は、間伐材を利用した癒やしグッズや動物フィギュアの販売を通じて環境保全や地域社会に貢献している。

癒やしグッズは、千葉県山武地方で産出され主に建築用構造材に使われる「山武杉(さんぶすぎ)」の間伐材を加工したもので、芳香と消臭効果があり、風呂に入れたり靴箱の消臭用として使う。

同社では、資源循環推進センター(千葉県船橋市)で建設廃材の中間処理を行っており、千葉県の自然環境とつながりが深い。千葉県内では近年、高齢化や農村部の人口減少などで「里山」の荒廃が問題化していることから、地域の環境保全を目的に始めた。

製造は障害者支援施設に委託し、取引先や近隣住民を中心に販売しているほかネットでも購入できる。7



間伐材利用の癒やしグッズと動物フィギュア

月からは、発がん防止効果のある乾燥させたビワの葉も発売する予定だ。

また、同センターは動物フィギュアも販売。子供の豊かな想像力と感受性を育

(吉田 英行)

車両使用年数延ばす

【神奈川】神奈川トラック協会の食品部(進部会長)は14日開き、今年度の重きを決定した。終修会では、神奈川の山口保・首席専門官(監査担当)免許制度を導入し、伊沢部会長が「震災の発生を受け両以上の車両を現させた。当初の1震などがあり、大ながら状況を見守りでも早い被災地向け、自動車NO化物)・PM(質)法に伴う車両数を延長してもらっており、大規模なえも大切となるた。

高橋浩治副部会品業界は安全面や徹底に加え、放射